

情報科学部

I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

厳格な成績評価を行うための具体的な方策が求められていた。これに関しては、2015年度カリキュラムにおいて単位取得要件と後続科目の先修条件を分離し、単位は取得したが後続科目の履修のためには学び直しが必要となる仕組みを導入した。

内部質保証の評価システムについての一層の配慮が求められていた。現状でもPDCAを回すことに問題はないが、外部評価に対して説明しやすい形式を整えることを検討する。

II 現状分析

1 理念・目的

1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

法政大学のミッション・ビジョンに準じ適切に設定されている。HOSEI2030中間報告では大学のミッションとビジョンに関して改定が行われる見込みである。学部の理念・目的はそれと整合することを目指し再検討する方針である。

1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

①どのように理念・目的を周知・公表していますか。

学部構成員ではfaculty wikiで情報共有されている。外部に対してはwebにて公表されている。

1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

カリキュラムの改訂、学生指導のガイドライン変更の度に教授会で議論している。

2 教員・教員組織

2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。

学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像に関しては、教員採用の機会に教授会懇談会の場で時間をかけて、長期的にみた教員の入れ替わりを見越して適切な教員組織が保たれるよう議論している。

②大学院教育との連携を図っていますか。

学部と大学院は教授会メンバーは90%重なるので連携が必要な議題は効率的に議論が行われ、実施に移されている。

③採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

人事規程で厳密に定め、採用・昇格の審議で厳密に運用されている。採用では公募にあたって資格を明らかにしている。

④組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。その体制について概要を説明してください。

コース制とコースごとのカリキュラムの実現にあたって適切な教員配置を行っている。

2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。

カリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。採用にあたっては研究分野だけでなく、予定される科目の担当能力を評価している。

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

採用の度にバランスを図っている。

2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

整備されている。

②規程の運用は適切に行われていますか。規程に沿った募集・任免・昇格のプロセスを説明してください。

人事選考委員会および人事委員会（法令および人事規程に合致するか判定）とが独立して活動している。

2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）等内のFD活動はどのように行なわれていますか。具体的に説明してください。

新入生に全員、2年生以上に選択として開講しているグループワーク講義の模擬授業を、不定期であるが、全教員が学生として体験する試みを行っている。全教員の担当1科目につきビデオ撮影を行い、全教員が閲覧可能にしている。その際、

外部業者と当該科目を担当していない専任教員によるレビューもフィードバックされている。
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。 コース制とカリキュラムマップの整備により、卒業までの道筋を明示し、学位授与方針を可視化している。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。 教授会場で議論し基本方針を決定している。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。 Webで常時公開しているが、それに加えて、入学時のガイダンスと1年次後半におけるコース制ガイダンスにおいて周知を図っている。
3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 学び直しの導入効果を後続専門科目の成績と関連付けて調査する予定である。また、情報処理技術者試験の合格者数、学会発表での表彰数の推移も指標として取り入れている。
4 教育課程・教育内容
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 ACM や情報処理学会の標準カリキュラムによりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を3年から4年ごとに行っている。 ②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。 現状ではほぼ達成されているが、引き続き、HOSEI2030 に示される大学のミッション・ビジョンに基づく検討を行う方針である。
4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
①学生の能力育成のために、どのような教育内容を提供していますか。教育課程・教育内容の特徴を説明してください。 学生が主体となる授業作りをすべての科目で実現できるよう教授会として取り組んでいる。 ②初年次教育、キャリア教育はどのように展開されていますか。 大学での学び、特に理系の学びに速く適応できるよう特色のある科目群を用意している。キャリア教育に関しては、学生の視野を広げるために各業界のリーダーによる招待講演を随時行っている。OB・OG と在校生の交流の場を秋に実施している。 ③学生の国際性を涵養するためにどのような教育内容を提供していますか。 学部生の段階から国際学術会議での発表を奨励している。そのための指導を情報科学プロジェクトおよび卒業研究で実施している。
5 教育方法
5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。
①学生の履修指導をどのように行っていますか。 入学時に数学のplacement test を実施し、到達度による科目選択を指導している。英語は入学時のTOEICをplacement testとして活用し、到達度別クラスを編成している。学科を横断したコース制を導入し、将来の職業をイメージしてコースを選択させ、コースごとに履修モデルを提示し指導している。基礎科目の学び直しの仕組みを検討している。 ②学生の学習指導をどのように行っていますか。 各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。 ③学生の学習時間（予習・復習）を確保するためにどのような方策を行なっていますか。 上記の課題の調整に加えて、自習を助けるためのGBCを開設している。 ④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。 PBL、アクティブラーニング形式の授業はすでに複数行われているが、さらに拡大するために教室施設の改良を行っている。

5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
<p>①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。 質保証委員会が全教員分を閲覧しチェックしている。</p> <p>②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 授業改善アンケートにて確認している。</p>
5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
<p>①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。 基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度の関連を教授会で議論している。単位認定と先修条件の分離を決定した。この適切性の検証は2、3年後に行われる予定である。</p> <p>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。 基準を設け実施している。</p> <p>③厳格な成績評価を行うためにどのような方策を行っていますか。 厳格な評価がスムーズに行えるよう、科目ごとの教員裁量による成績評価だけでなく科目横断的な総合判断も行っている。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、厳格な評価を実施している。</p>
5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
<p>①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。 年度末の進級判定にあたって、成績分布の検討を必要に応じて行っている。</p> <p>②学生による授業改善アンケート結果をどのように組織的に利用していますか。 全教員のデータを質保証委員会が閲覧できるようにしている。</p>
6 成果
6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
<p>①学生の学習成果をどのように測定していますか（習熟度達成テスト等）。 基礎科目群では Mastery Tests を実施している。必修科目の英語では TOEIC の受験を単に認定の前提条件とし、全学生の TOEIC の成績を成果測定に利用している。学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数も指標としている。</p> <p>②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。 詳細なデータで把握し、教授会で情報共有している。</p> <p>③学習成果をどのように可視化していますか。 学生に対してはポートフォリオで GPA と TOEIC の点数、学年内順位を確認できるようにしている。教授会に対しては、基礎科目では Mastery Tests の結果を統計処理して、情報共有している。</p> <p>④成績が不振な学生にどのような対応を行っていますか。 年に2回、成績不振者相談会を保証人を交えて行っている。</p>
6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
<p>①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 学期末ごとに教授会でデータに基づき検討している。</p> <p>②学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。 就職指導担当教員が教授会で集約した情報を随時報告している。</p>
7 学生の受け入れ
7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
<p>①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。 高校生向けに平易なことばで具体的にアドミッション・ポリシーを公開している。</p>
7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
<p>①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。 入試の査定を厳密に行っているため、ほぼ適正に保たれている。</p>
7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
<p>①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。 入学経路ごとに入学後の成績の追跡を行っている。</p>
8 管理運営
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。
教授会規程を設け、教授会主任、同副主任、学科主任の権限や責任を明文化している。

9 内部質保証

9.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は「果たすべき基本的な役割」に則して適切に活動していますか。

学部規模に応じた活動を適切に行っている。

②広義の質保証活動への教員の参加状況を説明してください。

教員全員が参加している。

現状分析根拠資料一覧

資料番号	資料名
1	理念・目的
11	Faculty Wiki - http://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/ （評価室の求めに応じて開示する）
2	教員・教員組織
	人事委員会規程 人事選考委員会規程 学会誌での教員募集広告
3	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	学部ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/
4	教育課程・教育内容
	学部ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/
5	教育方法
	教授会資料
6	成果
	教授会議事録 http://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/
7	学生の受け入れ
	入学案内 学部ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/ 学生の成績・相談会記録のデータベース(非公開)
8	管理運営
	情報科学部教授会規程
9	内部質保証
	教授会議事録 http://faculty.cis.k.hosei.ac.jp/wiki/ 抜粋

III. 学部(学科)の重点目標

2015年度開始の新カリキュラムで新たに導入される学び直しの仕組みにおいて、適切な成績評価が行われることを重点とする。該当科目の成績分布を教授会で確認する。

IV 2014年度目標達成状況

No	評価基準	教員・教員組織
1	中期目標	学部の理念・目的に基づいて教員組織の編成を進める。
	年度目標	教員の入れ替えに備え、人材像に関する議論を教授会にて進める。
	達成指標	今後の教育方針に見合うような人材像を議論し、教授会で承認する。
	年度末報告	自己評価
理由		人事選考委員の構成を若い層にも入れ幅広く検討できる体制を整え、また人事委員のメンバーの再構成を行い、今後予想される人事に関する検討に備えた。
	改善策	引き続き世の中の変化に対応できる教育・研究組織を維持することができるよう検討する。
No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

2	中期目標	教育目標、学位授与基準、教育課程の編成・実施方針に基づき、国際化や急激な技術の変化に追従し得る理系基礎力の育成を目指し、カリキュラムの再構成並びに各種教育手法の導入を進める。		
	年度目標	理系の積み上げ式を意識したカリキュラムの設計を行い、学生参加型演習の導入を検討する。それらと教育目標や学位授与方針との整合性について教授会で検証する。		
	達成指標	理系の積み上げ式のカリキュラム設計方針を教授会で承認する。		
	年度末報告	自己評価	S	
理由		理系の積み上げ式のカリキュラム設計方針の確認と、カリキュラム改革を実施コース制を実施することを教授会で承認し、2015年度からの実施することとした。		
改善策		カリキュラム改革の成果のフィードバックを図る。		
No	評価基準	教育課程・教育内容		
3	中期目標	学部の教育課程・教育内容を明確化するため、情報処理学会あるいは ACM が定めた標準カリキュラムをほぼカバーする教科・科目を実施しつつ、課題探究能力の向上のため、先進的なカリキュラムの導入を目指す。		
	年度目標	学生の多様な希望進路に合わせるためコース制の定着を図る。希望進路に対して適切な基準でコース選択を行うよう指導の点検・改革を継続する。 新カリキュラムに向けて学生参加の在り方やそのファシリテーションに関して議論を継続的に行う。		
	達成指標	コース選択は将来を見据えキャリア教育の一環として学生自身が考えるシステムを検討する。コース毎の履修状況の点検を行う。 議論をもとに新カリキュラムを確定する。		
	年度末報告	自己評価	A	
		理由	既に導入済みの3つのコース選択状況の把握。従来通りコミュニケーションコース選択者が多い。コースの理解が十分でないことに起因するものと思われる。これを解決するため、2015年度からコース制を意識した新カリキュラムを導入することとした。 コース制を徹底し両学科の専門性に合ったコース選択ができるように改革した。2015年度の履修状況での効果が未判明であるため総合的にA評価とした。	
改善策		コース制の選択結果を検討しフィードバックを図る。		
No	評価基準	教育方法		
4	中期目標	課題探究能力の向上を支える基礎力の定着を図るべく、小規模のプロジェクト形式の科目や発展的な研究テーマに触れる機会を適切に提供する。		
	年度目標	GP 事業の成果として得られたボトムアップの方策ばかりでなく、基礎科目の充実を図り修得度を上げる。 情報科学プロジェクトが決まるまでの短期担任制の定着を図る。初期の躓きを防ぎ、将来の専門性を見据えた履修指導が行えるようにする。 情報科学プロジェクトについて様々な研究テーマに触れる機会を持たせる。 学生参加型の授業を増やすため、科目ごとに学べる項目の可視化とカリキュラムで習得できるコンピテンシーの明確化を行う。積み上げ式のカリキュラムに合致した成績評価法の検討および試験的導入を行う。		
	達成指標	基礎科目のうち主要な科目については MT 試験を維持する。あるいは最低限の理解を確保するため再履修コースを設ける。 短期担任制による指導のガイドラインを作成する。 プロジェクト履修指導を徹底することを継続する。 情報科学プロジェクトについて1、2年生は1プロジェクトの上限を持たせ早めに学生自身の専門性を考える機会を与える。 学生参加型演習の設計に基づき、試験的な科目の導入を行い、その効果の検証を行う。プログラミング入門1について、本格的に学生参加型の演習を実施する。		
	年度末報告	自己評価	S	
理由		前年度に引き続きプログラミング、離散構造において MT 試験実施。線形代数の基礎では、再		

		履修科目の導入により基礎力の定着を図り、基本的な最低限の理解を得させることができた。情報科学プロジェクトが決まるまでの期間を短期担任制として、各教官に割り振り教授会にて学生の状況を把握することとした。ガイダンス時から徹底してプロジェクト履修指導を実施。また2015年度から全員が担任制にコミットすることとした。 情報科学プロジェクトについて1、2年生は1プロジェクトの上限を20名とし特定研究室への偏重することが減じた。また、2015年度から秋学期からプロジェクトへの参加を1年秋期からとし、学生自身が専門性を考えることができるように変更した。 トップ層への対応策の充実として、理系文章の書き方の試験的改善法として、数理実験に基づいてそのレポートを書く科目を設置し約30名の希望参加を集めた。学生参加型であるため基礎的な技術力がつくことが確認できた。2015年度から正式科目とした。
	改善策	再履修科目等を実施したフィードバックから演習量の不足があることを確認。今後、基礎科目について演習科目を増やす検討が必要。 カリキュラム変更に伴い、再度短期担任制による指導のガイドラインの再設定と確認を行う。プロジェクトへの参加を1年秋期からとし、現実的に専門性が判断できる時期に変更することとした。その効果の検証を行う。 左記の試験的プログラムを新規設置科目として次年度から導入されることとなった。効果について更に検証する。
No	評価基準	教育方法
5	中期目標	学部の理念・目的を達成するために、教育方法の改善を持続的に行う。
	年度目標	高度専門化への達成度を考慮した成績評価法を検討する。トップ層に対する教育改革の検討を継続する。 コミュニケーション能力向上のためのコミュニケーション講義の受講者数を増やす。 外国語教育におけるTOEIC等の外部基準による評価の定常化を図る。 数学・英語・物理におけるレベル別の教育体制の定常化を図る。 授業改善アンケートの全ての内容を基に次年度の改善案を策定し、質向上を図る。
	達成指標	専門性や研究テーマの決定について効果を高めるため情報科学プロジェクトのあり方について議論し、方向性を定める。また学会発表奨励のため予算措置を実現するとともに、優秀者の表彰方法を検討する。 学年単位のコミュニケーション講義の実施。 ICによる学力評価機会の増加。 プレースメントテストによるクラス編成の実施・維持。 質向上を継続するため、授業改善アンケートの全内容を確認する。また相互参観実施のまとめを教員全体で把握し、改善案を策定する。
	自己評価	A
年度末報告	理由	学会等での受賞等については学部のWebへ掲載することを継続。 早い時期に理解させることで効果が表れる理系文章の書き方について、情報リテラシー講義として1年次に実施。またグループワークをガイダンス時と秋期に実施。通年として学年単位までには至っていないが、秋期に37名の参加者があり学生の興味の高さを感じることができた。TOEICベースでの学力評価継続実施中であり、また単位認定の条件として活用している。2015年度に向けAdvancedコースを設計・設置した。 プレースメントテストに基づくクラス編成を実施維持。(数学、英語、物理) 各教員向けのアンケート結果を共有することを継続。またアンケートの回収率を上げるために授業内での記入を推進。相互参観実施についても継続。
改善策	広報活動の継続を図る。 上述のようにプロジェクトへの参加を1年秋期からとした結果と、現実的に専門性が判断できるようになったかを検証する。また学会発表のための旅費支給について規定設定の効果を検証する。 効果のフィードバックが望まれる。 新カリキュラムでの効果を検証する。	

			効果の検証といずれの対応についても継続することとする。	
No	評価基準		成果	
6	中期目標		情報科学・技術を核として社会の広い分野で活躍できる技術者の育成、あるいは研究者を目指す者に基礎教育を行う。またグローバルな環境の中で活躍できる人材を養成する	
	年度目標		キャリア教育の一環として、情報系実務資格試験の受験を支援する。 またインターンシップなどの導入により幅広い視野を持たせる。特に3年次でのインターンシップへの参加を積極的に指導する。 学会等、外部発表数を一定水準に保つよう指導し、専門性を発展させる基盤を作る。 大学院への進学を促す。	
	達成指標		情報系実務資格試験に関連する講義の実施と受験者数の増加。 インターンシップへの参加者数を昨年度と同程度以上とする。 各種学会やサイエンスインカレ等、外部発表数を昨年度と同程度に保つ。 大学院への進学者数の増加を図る。	
	年度末報告	自己評価		A
		理由		情報系資格試験に関連する講義を実施した。情報処理技術者試験では基礎情報技術者の合格者が37名、それ以外が9名となり昨年度に引き続き良い成果を得た。その中には情報処理技術者試験中の上位資格であるネットワークスペシャリストおよび情報セキュリティスペシャリストに各1名の合格者を輩出しており好成績と言える。 インターンシップ参加者は20名であり、昨年度と同程度であることから定着したものと思われる。なお冬期参加者もあることが今期の特徴である。 学会における奨励賞受賞学生を多数輩出し、研究者を目指す環境が整備されつつある。 海外での国際会議(ACM SIGGRAPH)のボランティアとして7名参加。 大学院への進学者数の増加を図るため父母への説明、各学年への就職ガイダンス時にその重要性を説明。100名近い参加者があり進学数増が期待できる。
	改善策		2015年度カリキュラム改革の目標設定にあたって、標準的な履修モデルで資格取得にも繋がることを示す。 積極的な学生に国際会議等でのボランティア活動、成果発表等への費用負担を行う更に幅広く対応できる制度等の検討が必要。	
No	評価基準		学生の受け入れ	
7	中期目標		社会を生き抜く力を要請するという社会的要請に向け、理系学部の学生として積極的に学びに参加できる素養のある学生募集を行う。	
	年度目標		中期目標を尊重しつつ、各入学経路において数理解能力が高く、幅広く科学を学ぶ志向のある学生の受け入れを強化する。また教育水準維持のため適正な入学者数が得られるようにする。	
	達成指標		一般入試においては、数学・物理の出題方針の独自性を堅持する。指定校推薦においては基準を厳格化する。 広報活動を幅広く行い認知度を高める。	
	年度末報告	自己評価		B
		理由		出題の独自性においては、他大学に比べて際立っている。指定校推薦においては、ミスマッチの入学者を減少させるため、昨年度に引き続き履修要件の変更により、基準の厳格化を実施した。 今年度は渡日前入試の実施したことに加え、入試制度の改革として、外国人留学生枠、公募推薦枠、外部外国語試験の活用などの検討を行い、継続的に入学経路の多様化を図っている。
	改善策		指定校推薦においては、毎年の見直しを実施する。 引き続き入試制度の多様化の効果を検証する。	
No	評価基準		内部質保証	
8	中期目標		継続的な内部質の保証を行うために自己点検の役割担当を明確にし、学部の教育システムの点検を実施し、その評価・改善サイクルを確立する。	
	年度目標		学部長の指揮の下、学科主任による自己点検の目標・実施案作成、教授会の承認、期末の評価という質保証のPDCAサイクルを実施する。	

	達成指標	役割分担と PDCA サイクル実施を教授会に諮り、実行に移す。
年度末報告	自己評価	A
	理由	従来と同様に学科主任による目標・実施案作成、教授会での承認、学科主任による期末の評価作成、教授会での承認のプロセスを実施し達成目標を達成した。
	改善策	小規模学部に見合った内部質保証のシステム化のあり方を探る。また急速な社会的変化に対応するため必要に合わせ中期目標も議論の対象とする必要がある。

V 2015 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教員・教員組織
1	中期目標	学部の理念・目的に基づいて教員組織の編成を進める。
	年度目標	退職教員の後任人事で学部の将来像を踏まえた人事採用を行う。
	達成指標	教授会懇談会で議論した教員像に基づく人事採用ができたか。
No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
2	中期目標	教育目標、学位授与基準、教育課程の編成・実施方針に基づき、国際化や急激な技術の変化に追従し得る理系基礎力の育成を目指し、カリキュラムの再構成並びに各種教育手法の導入を進める。
	年度目標	2015 年度開始の新カリキュラムで新たに導入される学び直しの仕組みにおいて、適切な成績評価が行われる。
	達成指標	教授会において、学び直しの全教員に正確に理解されているか確認する。具体的には、C 評価が単位認定には十分であるが後続専門科目の履修には十分でないという評価基準が該当科目担当教員に理解されているかを教授会で確認する。
No	評価基準	教育課程・教育内容
3	中期目標	学部の教育課程・教育内容を明確化するため、情報処理学会あるいは ACM が定めた標準カリキュラムをほぼカバーする教科・科目を実施しつつ、課題探究能力の向上のため、先進的なカリキュラムの導入を目指す。
	年度目標	2015 年度カリキュラム改革で 1 年次の取組が旧課程の再履修者の履修と矛盾なく実現できることを確認する。新カリキュラムで柱となる学び直しの仕組みの実現に向けて成績評価の原則の共通理解を教授会で確実にする。
	達成指標	再履修学生の必修科目の衝突がないことを確認する。2015 年度導入の新カリキュラムにおける学び直しの趣旨が成績評価に生かされているか教授会で検討する。
No	評価基準	教育方法
4	中期目標	課題探究能力の向上を支える基礎力の定着を図るべく、小規模のプロジェクト形式の科目や発展的な研究テーマに触れる機会を適切に提供する。
	年度目標	学生の能力に応じた指導を実現するために情報科学プロジェクトの履修を 1 年後期からとし、RAT (学生による学部の研究・教育用コンピュータネットワーク管理のチーム) への加入者を 1 年前期から増やす。
	達成指標	RAT への新生の加入希望の増加を確認する。
No	評価基準	教育方法
5	中期目標	学部の理念・目的を達成するために、教育方法の改善を持続的に行う。
	年度目標	学生参画型授業の増加を図る。
	達成指標	授業スタイルの教員による自己評価に基礎に、授業スタイルの改善の必要性を判断し、改善の実践を質保証委員会が評価する、という PDCA の在り方を実験する。
No	評価基準	成果
6	中期目標	情報科学・技術を核として社会の広い分野で活躍できる技術者の育成、あるいは研究者を目指す者に基礎教育を行う。またグローバルな環境の中で活躍できる人材を養成する
	年度目標	一般教養の科目群が、HOSEI2030 に示されるビジョンに合致するか検証を行う。
	達成指標	HOSEI2030 に示される法政大学のミッションとビジョンに基づく学部の理念・目的の議論を始めることができたか。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	社会を生き抜く力を要請するという社会的要請に向け、理系学部の学生として積極的に学びに参加で

		きる素養のある学生募集を行う。
	年度目標	留学生試験を拡大する。自己推薦入試の一形態である公募推薦を導入し、優秀な学生を獲得する。
	達成指標	渡日前入試の応募があるか。 選抜試験の方式が実効性があることを確認する。
No	評価基準	内部質保証
8	中期目標	継続的な内部質の保証を行うために自己点検の役割担当を明確にし、学部の教育システムの点検を実施し、その評価・改善サイクルを確立する。
	年度目標	慣例として分担されている質保証に関する役割を明文化する。
	達成指標	規程の制定。

VI 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見	
<p>2014 年度における大学評価委員会の評価結果では、厳格な成績評価を行うための具体的な方策が求められていた。これに対し、単位認定と成績評価（上位科目履修条件）とを分離し、履修条件を満たさない場合には学び直しを必要とする仕組みを導入した。なお、この仕組みについては、前提科目の成績評価が C であった場合に上位科目の履修が制限されるため、そのこと事を履修の手引きへ掲載する事が望まれる。</p> <p>大学評価委員会からのもう一つの指摘は、内部質保証の評価システムにおける PDCA 間の独立性に関するものであった。これに対しては未対応であり、今後の検討を期待する。</p>	
現状分析に対する所見	
1 理念・目的	
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。	<p>情報科学部の理念・目的は、進展が著しい情報技術分野で持続的に活躍できる人材を育成することであり、法政大学のミッション・ビジョンに整合する形で適切に設定されている。</p>
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	<p>理念・目的は、大学構成員に対してはfaculty wikiで、外部に対してはホームページで周知・公表されており、対応は適切である。</p>
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	<p>理念・目的の適切性については、カリキュラムの改訂や学生指導のガイドライン変更の際に教授会で検証しており、適切である。</p>
2 教員・教員組織	
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。	<p>情報科学部の教員像・教員組織の編制方針は、学部の教育理念・目的に基づき、多様かつ変化の速い情報科学分野への追従に配慮しながら責任ある教育を行うことのできる教員を中心に編制するというものであり、学位授与方針およびカリキュラムを前提とした適切なものとなっている。なお、教員像・教員組織の編制方針について教授会懇談会で長期的な視点に立って議論しており、評価できるが、議論の結果は教授会（構成員全員）でさらにブラッシュアップして情報共有するなどの必要があると思われる。</p> <p>大学院教育との連携については、学部と大学院の教授会構成員の9割が一致しているため、効率よく行われている。</p> <p>採用・昇格の基準については、人事規程で定め、採用にあたっては資格要件を明示して公募しており、対応は適切である。各コースのカリキュラムを構成する個々の講義についての責任は担当教員に委ねられている。</p>
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	<p>教員採用の際に教授会懇談会での教員編制に関する議論、科目担当能力の評価、現状の年齢分布を考慮しており、カリキュラムに対して適切な教員組織を備えている。また、年齢構成も適切である。</p>
2.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。	<p>教員の募集・任免・昇格については、人事選考委員会と人事委員会がそれぞれ人事選考委員会規程と人事委員会規程を運用して独立に審査しており、対応は適切である。</p>
2.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。	

<p>グループワーク講義の模擬授業を全教員が体験する試みや、各教員が担当する1科目のビデオ撮影およびそれに対する内部・外部評価のフィードバックを実施している。活発なFD活動を実施しており、高く評価できる。</p>
<p>3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針</p>
<p>3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。</p> <p>学位授与方針には、「コンピュータ科学の体系の理解」や「ネットワーク社会で活躍するのに必要なマナーと倫理の習得」など、5つの修得すべき学習成果等が明示されており、適切である。コースマップにより学位授与方針を視覚的に表現している点は評価できる。</p>
<p>3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。</p> <p>情報科学部教授会での議論により、教育目標に基づいた教育課程の編成・実施方針を決定している。なお、教育課程の編成・実施方針には、「入学経路の多様化に対応したリメディアル教育の充実」や「導入科目によるコミュニケーション力（文章構成力）教育の実施」など、学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育内容や教育方法などに関する基本的な考え方がまとめられており、適切である。</p> <p>これらは、HP、履修ガイド、上記Iのガイダンス資料で明示されており適切である。</p>
<p>3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、ホームページ、入学時ガイダンス、コース制ガイダンスで周知・公表されており、適切である。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p>教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性について、数値指標（情報処理技術者試験合格者数、学会発表表彰件数）を用いて検証していることは評価できる。</p>
<p>4 教育課程・教育内容</p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>カリキュラムは学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて急激に変化する部分とに分けて編成されている。前者はACMや情報処理学会の標準カリキュラムを参考にして設計され、後者は最新動向に応じて3、4年毎に改定されており、評価できる。また、心理学・倫理学などの情報科学に直結するような学び、激変する社会に対応可能な判断力を養うような学びなどが準備されており、評価できる。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>能力育成のため教育内容については、学生との対話が可能となる授業科目の実施に取り組んでおり、対応は適切である。</p> <p>初年次教育としては理系の学びに早く適応できるよう特色のある科目群を用意しており、キャリア教育としては各業界のリーダーによる招待講演やOB・OGによる講演を通しての交流の場を設けており、評価できる。</p> <p>学生の国際性を涵養するための教育としては、国際会議での発表を奨励し、そのための指導をプロジェクトおよび情報科学特講で行っており、適切である。英語教育については、入学時のプレースメントテストの結果に基づく到達度別教育が提供されている。</p>
<p>5 教育方法</p>
<p>5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>学科横断的コースの導入、コース専門科目の必修・選択必修化、履修モデルの提供により、将来の職業に結びついた履修指導を実施しており、高く評価できる。加えて、入学時のプレースメントテストの結果を利用して、数学では到達度別科目選択指導、英語では到達度別クラス編成を実施している。</p> <p>学習指導については、授業外の学習時間が確保できるように課題の量を調整しており、適切である。</p> <p>学習時間の確保については、担当教員による課題の調整に加えて、ガラスボックスオフィスアワーセンターによる自習サポートを実施しており、評価できる。</p> <p>新たな授業形態への取り組みとしては、PBLやアクティブラーニング形式の授業をより一層拡大するための教室施設改良が進んでおり、評価できる。</p>
<p>5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>質保証委員会が全てのシラバスを確認しており、適切である。授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、授業改善アンケートの結果により実施されている。</p>
<p>5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>成績評価と単位認定については、2015年度より「前提科目」を評価B以上で修得していなければ履修を認めない「上位科目」を設けて、単位認定と成績評価（上位科目履修条件）との分離を試みている。これについての適切性の検証は数年後に</p>

<p>実施予定である。なお、履修ガイド (P.30 の「(6)前提科目について」および P.45 「(11)再履修クラスについて」) によると、前提科目で評価 C を受けた学生は在学期間中にその上位科目の履修機会を失うことになるから、改善が必要であると思われる。</p> <p>他大学等における既修得単位の認定については、基準を設けて実施している。</p> <p>厳格な成績評価のための方策としては、担当教員による成績評価に加えて全科目の成績評価を基に成績不振者の総合判断を行っている。</p>
<p>5.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>教育成果については、年に 1 度、必要に応じて成績分布を検討している。授業改善アンケート結果については、質保証委員会が閲覧できるようにしている。</p> <p>また、GPA 分布、期末試験や MT の素点分布などを細かく統計分析しており、適切である。</p>
<p>6 成果</p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p>情報科学部学生の学習成果については、全学生の TOEIC の成績、学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格数を指標にして適切に測定している。加えて、基礎科目群では学んだ内容を確実に修得しているかどうかを確認するための Mastery Test を導入しており、評価できる。</p> <p>成績分布、試験放棄、進級などの状況については、情報科学部教授会で情報共有しており、適切である。</p> <p>学習成果の可視化については、Mastery Test の結果を統計処理して情報科学部教授会で情報共有しており、適切である。学生に対しては、将来目標の実現をサポートするポートフォリオで GPA、TOEIC 得点、学内順位を確認できるようにしており、高く評価できる。</p> <p>成績が不振な学生に対しては、保証人を交えた成績不振者相談会を年に 2 回実施しており、高く評価できる。</p>
<p>6.2 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。</p> <p>卒業、卒業保留、退学状況については、学期末ごとに教授会で情報共有している。</p> <p>就職・進学状況については、就職担当教員が情報科学部教授会で随時報告しており、対応は適切である。</p>
<p>7 学生の受け入れ</p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>学生の受け入れ方針は、求める学生像や修得しておくべき知識等を平易な言葉で表現しており、適切である。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>入試査定を厳密に行っているため、定員はほぼ適正に保たれている。</p>
<p>7.3 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p>学生募集および入学選抜の結果は、入学後の成績を入学経路毎に追跡することで検証されており、対応は適切である。</p>
<p>8 管理運営</p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p>教授会主任、同副主任、学科主任の業務を明文化した教授会規程を設けており、適切である。</p>
<p>9 内部質保証</p>
<p>9.1 内部質保証システム (質保証委員会) を適切に機能させているか。</p> <p>質保証委員会は学部規模に応じた活動を適切に行っている。教育の質を保つための“広義の意味での質保証活動”を行うと共に、現状分析シートや自己点検書式のチェックなど、大学評価室が提唱する基本的役割 (C と C から A への繋がり) の管理) も行っている。開催頻度も適切であり、その活動は評価できる。</p> <p>また、質保証活動は質保証委員会メンバーに加え、教員全員が参加している。</p>
<p>その他法令等の遵守状況</p> <p>特になし</p>
<p>2014 年度目標の達成状況に関する所見</p> <p>情報科学部は従来のコース制を見直し、2015 年度より 3 つの学科横断コース (コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学) からなる新コース制を導入した。各コースには推奨科目だけでなく必修科目および選択必修科目が設けられており、学生が体系的に学べる場が提供されている。加えて、プロジェクト所属前の短期担任制の導入により、学生の希望する将来像に応じた技術基盤構築に向けての履修指導を徹底している。さらに、数学、英語、物理でのレベル別クラス編成、再履修科目 (線形代数の基礎) の設置、成績上位層を対象とした科目 (レポートの書き方、英語上級クラス) の新設、プログラミングと離散構造における Masterly Test の導入など、成績上位層にも下位層にもしっかりと技術基盤が身につけられるよ</p>

うに工夫されている。さらに、情報処理系実務資格試験に関連する講義を実施し、高度情報処理技術者試験 2 名（ネットワークスペシャリスト 1 名、情報セキュリティスペシャリスト 1 名）と基礎情報技術者 37 名の合格者を出している。

以上より、情報科学部は 2014 年度目標を達成している。

2015 年度中期・年度目標に関する所見

2015 年度中期・年度目標は現状を踏まえたものとなっており、概ね適切である。特に、2015 年度の新カリキュラムと旧カリキュラムの再履修者との整合性の確認については、学生の不利益となる恐れがあるので、迅速な対応をお願いしたい。また、「学び直し」の制度導入後の成果が期待される。

認証評価における指摘事項への対応状況に関する所見

該当なし

総評

情報科学部は理念・目的に「技術基盤を確立した人材の育成」を掲げており、その一環として 2015 年度より新しいコース制を導入した。それぞれのコースに必修・選択必修科目を設けて、修得の積み上げによって体系的な技術基盤を築こうとする試みである。大変優れた取り組みであり、今後は安定軌道に載せるための努力を続けていただきたい。FD 活動としてはグループワーク講義模擬授業の全教員による体験、担当科目 1 科目のビデオ撮影およびその内外評価のフィードバックを実施しており、高く評価できる。この他にも、学習から学生生活までをサポートするガラスボックスオフィスアワーセンターの運営、キャリアデザイン・学習計画・学生生活を一括管理するポートフォリオの導入、個々の学生と担当教員がポートフォリオを通じてキャリア形成にあたる仕組みの導入、情報科学部用各種サーバーなどを管理する有志学生チーム RAT を通じた自主性とチームワークの養成など、多岐に渡った独自の取り組みが精力的になされており、今後も継続していただきたい。

改善すべき事項等については以下の通りである：

- ・履修ガイド P. 30 の「(6)「前提科目について☆2015 年度入学者」および P. 45 の「(11)再履修クラスについて」より、前提科目で評価 C を受けた学生は在学期間中にその上位科目の履修機会を失う、と解釈できる。これが事実ならば改善すべきであるし、そうでないならばその旨を履修ガイドに明記すべきである。
- ・履修ガイドにおいて参照ページ番号の誤りが多々見られるので、訂正する必要がある。例えば、P. 11 の項目「前提科目について」中の 3 行目（[誤]P. 29→[正]P. 30）。
- ・「コースマップのコース」と「コース制のコース」は同一のものを指しているとは思えないので、名称変更などの改善が望まれる。
- ・履修モデルとコースマップあるいは（コース制の）コースとの対応付けが困難に思えるので、改善が望まれる。
- ・質保証委員会の学部における役割とその活動についての詳細な記述が望まれる。